101

今村橋の照明設備

田吹 允幸 伊藤 隆之
(岩崎電気株式会社)

1. まえがき

愛知県瀬戸市は1000年余りの「やきものの」歴史を持ち、「せともの」という言葉は陶磁器の代名詞にもなっている。この歴史と伝統あるまちを「やきもののまち」にふさわしい景観にしていくなため、瀬戸市では昭和58年度から「やきものを使ったまちづくり事業」を推進している。これまで市の中心部を流れる瀬戸川に架かる橋を、順次「やきものの橋」に改装してきており、平成2年度までに7つの橋が完成している。

今村橋は7番目の橋として、幅員22(m)・橋長76.7(m)の愛知県施工の新設の橋に瀬戸市が陶磁器の修景を施したもので、平成3年3月に完成している。以下、この橋梁の照明設備について報告する。

2. 照明設備

照明設備は、車道照明及び高欄照明からなっておりその概要は次のとおりである。

(1) 車道照明

車道用の照明はポール照明方式とし、橋梁幅員が22(m)と広いこともあり、照明効率及び照度の均斉度を考慮し高さ12(m)・アームの出幅2.5(m)のデザインポールを使用している。照明器具も橋梁の景観を考慮し、ハイウェイ灯具の配光を持つデザイン灯具を採用し高圧ナトリウムランプ220(w)にて照明を行なっている。照明柱5基による車道面の平均照度は初期で約20(lx)を得ている。

(2) 高欄照明

高欄の支柱上部に46カ所設置された陶製丸グローブの照明器具は、高効率・コンパクトな高圧ナトリウムランプ50(w)により歩道の照度を確保すると共に夜間橋梁の輪郭を浮かび上がらせるものである。

この陶製丸グローブは、低位置に設置される照明となるため自動車の運転者への影響を考慮し、光の透過率の異なったグローブを用意し実験により実際の見え方を検討し、透過率の余り高くないものを採用し照明器具の輝度をおさえている。

3. その他

本橋梁ではそのほかに、高欄部分に「瀬戸の風景」の染付陶板や練込技法による陶製オブジェを、また歩道部に黄瀬戸釉の陶板タイルや円形バルコニーに「土と火と水」をイメージしたモザイクタイルを、さらに中央分離帯に市花である「つばき」をイメージしたモザイクタイルを設置するなど、「やきものの橋」にふさわしい仕上がりを見せている。

4. あとがき

瀬戸市ではこれらのほかに、瀬戸川護岸に「人口と自然の調和」をモチーフとした陶壁を、また市民の方が押された手形陶板や世界デザイン博に出展した陶製モニュメントを市内の公園に設置するなど、一貫した「やきもののまちづくり」を進めており今後の展開が期待されるものである。

Lighting facilities of Imamura bridge, Mitsuyuki Tabuki, Takayuki Itou